やまもり☆ホッとスクランブル 大和市民活動センターだより

『やまとっこ☆みつけた』



第 404 回 8/2(火) 「サークルありんこ」

会長 岩崎 沙也花さん 副会長 妻籠 那由さん

「サークルありんこ」 は今年9月で創立41 年を迎え現在、中学生から社会人まで21名 が所属する団体です。地域のお兄さん、お姉 さんとして成人式をはじめ市内のイベント のボランティアとして活動し、子どもたちと 共に様々な体験をしながら自分達も成長す る「始動者」=「始めに動く者」でありたい と語ります。共に活動する仲間を大募集中で す。

「たくさんの人たちと一緒に活動できる日 を楽しみにしています」と元気な声で呼び掛 けました。

今後の予定

9/3(土)「子ども会かるた大会」、 2023年3/4(土)~5日(日)

向けて準備が進んでいます。 「ジュニアリーダー研修会」

問合せ:大和市こども・青少年課 046-260-5226

第 405 回 8/16(火) 「やまと国際オペラ協会」 長谷部 浩士さん 指揮者 箕輪 健太さん



2015年4月「シリウスで本格的なオペラを 上演すること」を目指して設立された「やま と国際オペラ協会」は現在70名の合唱会員 をはじめ、オーケストラ会員、ソリスト会員、 ステージクリエイター会員の総勢 120 名の 会員が所属する団体です。音楽を通した国際 交流を目指し、原語での上演や音楽の根本と なる外国文化、その歴史の背景を理解する為 の講座を実施するなどオペラをより深く知

して活動しています。8月公演の後は12月 に第九の公演が予定され、そしてコロナ禍の 為に延期を余儀なくされた歌劇 「ドン・カルロ」公演開催に

る為の工夫がされ、持続可能な活動でオペラ

を表現する"サスティナブル オペラ"を目指

問合せ:info@yioa.net やまと国際オペラ協会(YIOA) 第 406 回 8/30(火) 「血管けあ元氣隊」 代表 小宮山 利恵子さん 会員 髙橋 多千美さん

長く食育活動を続けていた小宮山さんが 「整膚」に惹かれ「整膚師」の資格を取得し 「120歳を目指すスーパー向健人(こうけ んじん)!」をキャッチフレーズに「血管 けあ元氣隊」を立ち上げたのは今年7月。7 名の会員が所属する団体です。現在は講習 会開催がメイン活動ですが、ゆくゆくは体 操や呼吸法、食育活動に携わっている人達 と情報を共有して集える環境を作り活動を 拡げたい、ぜひ一緒にやりましょう!と呼 びかけました。

6. 6

今後の予定 (講習会)

日時: 9/25 (日) 10/23 (日) 11 時~12 時 場所:大和市民活動センター 1階会議室

料金:1000円(資料代等)

問合せ:

090-4718-5648 (小宮山)

次回の出演 407 回 9/6 (火)「大和地区日中友好協会」 408 回 9/20 (火)「市民活動グループ ごきげんカンパニー」

FM やまと 77.7MHz 第 1.3.5(火) 生放送 9:00 ~ 10:00 同日再放送 15:00~

第 11 回 「田舎体験プログラム」運営 TSUBASA's トーク

①農業や食文化を体験する 2 日間

岩手県一関市花泉町を1泊2日で 体験する「田舎体験プログラム」を 8/8~8/9 と 8/22~8/23 の 2 回の日 程で開催しました。主に大学生と大学 院生を対象に、花泉の農業や食文化を 体験してもらい、夏の思い出を作って もらいます。本プログラムは「緑のふ



るさと協力隊」の僕が一関市役所花泉支所の職員の方々や、地 域の農家の方々の協力を得て運営したオリジナルの企画です。 プログラムには全日程で 3 人の申し込みがあり、事前に尋 ねておいた参加者の関心に合わせて体験内容を組みました。

②東京の学生が花泉の農業従事者と交流

1回目の日程で参加した江澤さんと及川さんは、東京で植物 や土壌を研究する大学院生で、「農家さんと沢山話をしたい」 「作物の病気への対処に興味がある」という関心を持っていま した。こうした希望を踏まえて、プログラムでは、花泉で活躍



▼ する農家さんを尾畑宅に呼び、流しそ うめんを通じて交流を深めてもらい ました。また、JA いわて平泉の職員 から花泉の米生産や、米の乾燥貯蔵施 設の利用について話を聞く機会も持 ちました。2人とも積極的に交流・質 問していました。

③温暖化への意識と収穫の大変さを学ぶ

2日間の体験を経て、江澤さんと及川さんは次のように話 してくれました。「流しそうめんや交流会で農家さんから話 を聞いていて、地球温暖化への当事者意識があり、それぞれ

が自分にできることを考えている と気付かされた。」、「トウモロコシ やズッキー二の収穫体験を通じて、 毎日収穫を続けることや、規格に 合わせて収穫することの大変さを 学んだ。」



4感じた運営の大変さ、地域からの信頼

大変だったのは、大学生の夏休みに間に合わせるため、農 作業や生活にあまり馴染んでいない6月から、他の活動の合 間を縫って企画や広報を進めていくことでした。開催日まで のスケジュール管理も不十分で、急な依頼で花泉支所や農家 の方々には迷惑をかけてしまったと思っています。しかし、



プログラムを通じて普段自分が 生活している場所に地域内外の 人たちが集まってくれたことで、 改めて地域からの自分に対する 信頼を感じ、「ここにいてもいい んだ」と思いました。

(サポーター 尾畑 翼)

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第 182 号 発行日: 2022 年 9 月 10 日

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00> <休館日 12 月 29 日~1 月 3 日·毎月第 3 月曜日> 〒242-0018 大和市深見西 1 - 2 - 17

発行:大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788 e-mail:yamato@ar.wakwak.com http://www.kyodounokyoten.com/

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!



あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。 第 182 号 2022 年 9 月 10 日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

9 月号 2022



ベテルギウス玄関 9月6日の生け花



表紙絵は 「**やまと国際フレンドクラブ」**主催の 2021 「第14回やまと国際アートフェスタ」入賞作品を掲載 しています。(次号からは、9/23(金)~25日(日)に、 シリウスギャラリーにて開催される「第15回やまと国際ア ートフェスタ」入賞作品を掲載いたします)

画廊喫茶オルセー賞 上嶋 ラムショウ里音 さん 大和市立中央林間小学校4年生(当時3年生 イギリス) タイトル:「みんなと手をつなごう」

メッセージ:「世界中のみんながマスクなして、顔を見 て笑い合える世界に早くなってほしいと思ってかきま した」

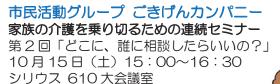
「やまと国際アートフェスタ」は 「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で 毎年催されています。

*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら 「ともにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

現在、令和4年度大和市民活動推進補助金事業が活発に展開されています。ぜひご参加ください。

こころサポーターかながわ協会設立準備会 ここかな第1回勉強会 9月18日(日)

ベテルギウス第2会議室 10時~ 問合せ:info.cocokana@gmail.com



リアル参加 30 名/オンライン参加 50 名 問合せ:090-1057-9588(田中)



地域を明るくするリハビリテーション専門職の会 大和 理学療法士が出向く介護予防講習会

会場は皆様にご用意していただきます 大和市内ならどこでも伺います (無料で実施)

問合せ: chiikiyamato@gmail.com

やまとパワフルミュージックサポート 毎月第3土曜日 パワーアップイベント開催

https://yamato-power-up.jimdofree.com/ Facebook「大和駅前パワーアップイベント」 でご確認ください。



ウイズコロナ、ポストコロナの時代

市民活動、NPO活動、社会貢献活動はどうあるべきか 先駆の人を訪ねて 第8回



すべての人々がフレームインできる社会を創る

小川 杏子 (おがわ きょうこ) さん NPO 法人パノラマ



シリーズ第8回は、「すべての人々がフレームインできる社会を創る」をミッションに、既存の社会フレーム(枠組み)では収まりきれずに、社会的弱者となるリスクの高い 子どもや若者たちなど、すべての人々がパノラマ写真のようにフレームインでき、活きいきと暮らせる社会を創るために活動されている「NPO 法人パノラマ」の小川杏子さんへのインタビューの模様を掲載させていただきます。

私が、パノラマの活動を知ったきっかけは、市内で外国ルーツの市民に日本語のよみかきを教えているボランティアの方に誘われて受講したシリウスで「校内居場所カフェ」についてのセミナーでした。それを受けて、田奈高校の「ぴっかりカフェ」、大和東高校の「ボーダーカフェ」に「風の人」として参加し、常にいるボランティアでなくても、何もできなくても、その場にいればいいという意味を理解しました。今回は、昨年 10 月の「共育セミナー」にご登壇いただいた、小川杏子さんを再びお訪ねして、「校内居場所カフェ」の大切な役割について伺いました。

聞き手は、船越英一 (インタビュー: 2022 年 6 月 15 日)

小川さんが市民活動、NPOの活動に関わるようになったきっかけを教えてください

2011 年の東日本大震災の影響が大きいですね。私は、茨城県の水戸出身なのですが、地震が起きただけじゃなくて、原発事故が起きて親に心配されたんです

あのとき、横浜市青葉区に住んでいて、大学に通っていたので、原発事故が起きて、東海村のこととかもあって、今後何が起こるか分からないから、そこにいた方がいいと言われて、一人暮らしをそのまま続けたんです。あのときは、住み慣れた場所だったけど、親と会えなくなるのではとか、また、大きい地震が来るのではとか、原発事故のその後についても不安が募っていました。

そんなときに、被災地での絵本の仕分けボランティアの話が、私が登録している団体から流れてきて、飛び込んだのが最初です。こどもたちのことが気になり、福島のこどもたちを神奈川に呼んで、キャンプや外遊びをする「神奈川県ユニセフ協会」、「『福島の子どもたちとともに』川崎市民の会」の活動に関わり出して、活動する人たちや地域の人たちとつながりだしたという感じですね。

— その後、小川さんは石井さんと出会って、パノラマの スタッフとなられるのですが、大学を卒業して、すぐNP Oで働くって、すごいなって思うんですけど

大学院生のとき、トルコで研究をしていて、遭遇したクーデター未遂事件や福島の原発事故のときに、一番その影響を受けるのがこどもたちなのに、自分で何かを決めて変えるってことがとっても難しいってことは思いました

大学院時代、悶々と葛藤していたんです。研究すること

と、現場でリアルに目の前の人の困りごとを解決するって、 私には乖離があって、自分はどっちに行くのかなって考え ながらボランティア活動をしていました。そんな中、本当 にたまたま、パノラマの活動を知って、なんとなく気にな るし、面白そうだなと思っていたときに求人が出たんです。

それで、今の質問に答えると、まず一つは、いろんな活動をする中で、いろんな生き方をする人に出会って、何人もリスペクトできる人たちがいて、「あ、何やっても生きていけるな」って思ったのが一つ。

それから、トルコに留学している時に家を持たない時期があったんですけど、そのときも、「なんかあったらうちに来れば」、「仕事に困ったら私に言って」とか言ってくれる人がいっぱいいて、人とつながっていれば何とか生きていけるって思ったのが二つ目。

もう一つは、トルコにいるとき(2016年)にクーデターにあったんですよ。でね、東日本大震災のときもそうなんですけど、「いつ何があるかわかんないなあ」って思って、今、自分が気になること、やりたいことをまずはやってみよう思ったことですね。パノラマに入ったのは、20代後半なんですけど、30代にかけては、「取り合えず走ってみる」ってやっていました。

その中でただ一番気になったのが、なんか福島のことも そうだったんですけど、いろんなことがあるとやっぱり一 番影響を受けるのって子どもたちだし、影響を受けるのに、 自分たちで何かを決めて変えるってことがとっても難しい 面があって、そのご家庭の状況に左右されたりとか、周り の大人の意思決定や環境に左右されたりっていうのを目の あたりにしてきたので、子どもたちとか若者のことに関わ りたいとぼんやり思っていたっていうのはありますね。

ー パノラマのどこに魅かれたのですか?

パノラマが「居場所」っていうことを外に発信している団体 ということと、高校生の支援ってあんまり聞いたことがなか ったので

パノラマは単純に居場所っていうことに、魅かれたとい うか、「居場所」っていうことを外に話をしている団体って



ことが気になったのと、福島でかかわっている子たちが、だんだん 小学生から中学生になっていく中で、子どもへの支援って結構ある けど、高校生への支援ってあんまり聞いたことがなかったので、ちょっと気になりました。

NPO 法人パノラマが実施している主な事業:校内相談・居場所カフェ、よこはま北部ユースプラザ、有給職業体験バイターン、中退生や卒業生支援、居場所居酒屋「汽水」、オンライン対話サポート「ブリッヂ」など

一 石井さん (パノラマ代表 石井正宏さん) との出会いは 大きかったですか?

私、パノラマの持っている凄さみたいなものを全然知らなくて、飛び込んだっていうのがあって。石井さんと面談っていうか、カフェでおしゃべりしたんですよ。私もちゃんと石井さんのことを知らずに会ったんですけれど、一緒に話している中でおもしろそうだし、自分もパノラマに関わって何ができるかなってワクワクする感じはしました。

ー ぼくは、パノラマの「校内居場所カフェ」の現場で石 井さんとも会っているので、ほんとに小川さんと両輪でパ ノラマを回してるって感じるけど

パノラマは2013年に立ち上がって、そこから2年ぐらいずっと石井さんが一人でやってたんですよ



私、パノラマに入って6年ぐらいなんですけど、2013年に、パノラマが立ち上がって、2年ぐらい本当に石井さんはひとりでやってたんですよ。一人でやって、助成金が取れたので、誰か人を入れようっていが応募したみたいな感じですね。

の2トップ? 大和東高校の「ボーダーカフェ」(校内居場所カフェ)は、基本は石井さんと私だけで運営しています。時々ユースプラザ(若年者自立支援事業)のスタッフとか、ほかの場所から来ることはありますけど、ボランティアさんがたくさん参加してくれています。

ボランティアさんの年齢層と職業に特徴的なものはありますか

ちょっと笑い話があって。生徒がね、ぴっかりカフェ、ボーダーカフェの大人はボランティアで来ているというと、びっくりするんですよ。「バイトじゃないの」って。あと、みんなに、「ここにいる大人みんな、ヤンキーじゃないの」って言われたことがあって。その心は、「こんな日中に、仕事もせずにカフェに来て、遊んでいるやばい大人だ」みたいなことを言われたことがありました。それぐらい、ボランティアは多世代にわたっていて、リタイアの人たちも多いんですけど、現役世代の40代50代の人たちもある一定数いるかな。ただ、フリーランスの仕事をされている方が多いなっていう感じです。主婦の方とか大学生も一定数います。

一 カフェに通っていた高校生が卒業して来てくれたりしますか

あります。卒業牛が少し経ってから来てくれています

卒業生が少し経ってから来てくれています。自分の居場 所、ゆるやかに自分の身を守れる場所にもなっています。

最初は、スタッフが石井さんしかいなかったっていうのも大きいと思います。そこはすごくある意味ね。よかったというか、他団体のカフェで、全部自前のスタッフとアルバイトの人でやっている団体もありますが、そうすると雰囲気違うんですよ。スタッフなので、醸し出す雰囲気がやっぱり違って。あの雑多と言ったらちょっと失礼ですけど、雑多な感じとはやっぱりすごく独特だなあと、私もいろんな現場にいても、すごく思います。

ぼくは、スポット的に、時間ができたときにわずかしかいかないけど、そういう人でもボランティア参加できるのはいいことですね

レギュラーでいてくださる方は、非常に助かるんですけど、 そうじゃない人が来ると意外な展開が起こります

当然、レギュラーでいてくださる方がいるのは助かるんですけど、そうじゃなくて、ぽっと入ってくれる人がいることで、場に新たな動きが起きたりとか、意外な展開が起きたりとかもするので、そういう意味ではスポットで来てくれる人がいるっていうことも大切だなと思っています。(次号に続く) 編集・文責・写真:船越英一、イラスト:望月則男

NPO 法人パノラマでは、大和東高校での朝食提供事業を県教育委員会から委託を受けて実施しています。詳細は、パノラマまでお問い合わせください。 TEL:080-6840-8395

mail:border.cafe2017@gmail.com QR コード →
↓ 「やまひが朝カフェプロジェクト」作成の
募集ポスターです。





8月の展示コーナー 8/2~30 **ネ**ニデザイン

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。

共育ボードより

☆色々おもしろい。興味がある展示物ですが、 どんな活動をされている団体なのでしょう?☆てづくりすばらしい

☆見ていると楽しくなりますね! ☆頑張ってますね。期待してます!!

どん

— 3

_